

# 小学校1年体づくり運動「リボン」の実践

## —A 小学校1年4学級の事例—

奥村 玲未 (愛知教育大学)

### 1. 目的

本研究では、体づくり運動の授業実践において、教師からの働きかけによるものではなく、子ども主体の実践を行うこと、その実践によって子どものどのような動きが導きだされるのか、またその動きからどのようなことが考えられるのか、調査をすることを目的とする。

### 2. 研究方法

新体操競技に使用されるリボンを実践に取り入れた理由は、子どもが主体的に運動するには、彼らが「やってみたい」と思える要素が必要だと考えたからである。また、音楽も取り入れることにより、より多くの動きを子どもから自然と引き出すことができると考えた。

- 1) 対象者 A 小学校1年生4学級(各学級約30人)
- 2) 調査方法 1学級につき45分間の授業を2回ずつ行う。授業の最初にリボンを配布した後、こちらから技術について指導は行わず、「自由に動いてみよう」と指示をするのみ。子どもが運動をしているとき、音楽を複数かける。
- 3) 分析方法 実践の様子を、ビデオカメラで録画。実践終了後、撮影した動画をもとに子どもの動きを抽出。それを、文章により描写し、その動きがどんな要因により出現したのか、状況の検討、分析をする。

### 3. 結果と考察

こちらから動きについて指導を行っていないが、実践の結果、左右に動かす、8の字を描く、投げる、曲に合わせてステップを踏む、友達と動きを合わせる、音楽の緩急に合わせて動きを変える、等の動きが出現した。それらは、リボンの動かし方や動かす速さ、動かす位置、体の動かし方、に違いが見られた。円を描く動きが最も多く見られたが、同じ円で

も円を描く位置が様々あり、体の前方、体の側面、体の上部で円を描く様子がみられた。他の子どもと違った動きをしたい、という気持ちがあったため、同じ円を描くという動きでも、円の位置が様々変わって出現したと考えられる。また円の大きさも様々で、大きな円(図1)から小さな円(図2)まで見られた。さらに、リボンを回す速さも違い、テンポの速い曲では速い回し方、テンポが遅い曲では遅い回し方になる傾向が見られた。これは、音楽のテンポにのっているため、リボンで円を描く大きさや速さが変わったのではないかと考えられる。



図1 大きな円を描く様子



図2 小さな円を描く様子

### 4. 結論

実践の結果、技術について一切指導を行っていないにも関わらず、多くの動きが出現した。これらは、教師からの働きかけによるものではなく、リボンという手具、音楽、周りの子ども、等に影響を受けて、子どもが主体となって出現したと分析でき、よって、本実践は子ども主体の授業実践になったと考えられる。

### 5. 主な参考文献

- 1) 文部科学省,2018,「小学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 体育編」,東洋館出版社,PP25-26
- 2) 高田康史,2018,「『体づくり運動』の可能性と限界-これまでの実施状況から考える」,体育科教育 65 卷 12 号,PP32-35